

# 川本町川本西公民館

## 1 川本西公民館地区の概要

[平成 28 年 2 月末現在]

人口	1,019人	世帯数	505世帯	高齢化率	43.2%
学校	保育所 1				

川本西公民館地区は、川本町の西部に位置し、江津市、邑南町と隣接している。地区の中央部には、中国太郎として名高い江の川がゆったりと流れ、さらに、国道 261 号線が広島に向かって整備されている。この国道沿いには、ホームセンターやドラッグストア、コンビニなどの商業施設、道の駅があって連日大勢の人が訪れている。

川本西公民館は、労働省、雇用促進事業団、県当局などの協力指導により、勤労福祉センターとして昭和 55 年 4 月に開館した。当初は、町民のふれあいの場としての施設活用が活発に行われた。その後、長く地域住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進と勤労意欲の向上に寄与してきた。現在、川本西公民館地区も他地区と同様に、人口減少と少子高齢化が進んでおり、最近では、地域住民の「心のオアシス」としての心の寄りどころや、世代間交流の場や地域課題解決の中核的施設としての要望が高まっている。

## 2 川本西公民館の概要

### (1) 地域の課題

公民館を利用したサークル活動や地域行事、公民館が主催する講演会などには、多くの参加がある。しかしながら、参加者のほとんどが高齢者であり、子どもや若者、子育て世代や仕事を持っている世代の参加はあまり見られない。よって、各世代間の交流や繋がりが少なく、お互いの価値観を認め合う雰囲気あまり見られない。

また、自然に囲まれた地域であるにも関わらず、子どもたちの自然体験が少ない。原因として、自然環境や生活スタイルの変化などにより、子育て世代自身の自然体験が不足していたり、自然との関わりに不安を持っていたりすることなどが挙げられる。

さらに、高齢者にとっては、子どもとの関わり方にも不安があるようで、ますます互いが理解し合えるような関係がづくりにくい。

このようなことから、地域のよさに気づき、それをもとに地域を盛り上げていこうとしたり、地域課題の解決を目指して活動したりする主体的なグループは育っていないのが現状である。

### (2) 課題解決に向けた公民館の戦略

上記のような実態をふまえ、まず、子どもや子育て世代が気軽に公民館に来ることができる雰囲気を作ることが重要であると考えた。そこで、親子（小学生）を対象にした体験的な活動を取り入れた事業を行い、公民館活動の楽しさを味わってもらおう。そこへ事業のサポーターとして、サークル活動で公民館を利用しているグループに協力していただき、多世代が交流する場を意図的に設定する。親子（小学生）は、お世話をしてもらった地域の方への感謝の気持ちを持ち、協力していただいたグループは、地域の親子に喜んでもらったという満足感を持つ。子どもや若者、子育て世代を対象の中心とした事業に、地域の高齢者がサポーターとして参加して、みんなが一つの目標に向かって協力し、助け合って汗を流す事業を展開することで、お互いの価値観を認め合う関係ができるのではないかと考えた。また、地域のよさを見つめ直すふるさと教育の視点で事業の内容を設定することで、地域に愛着を持たせ、地域課題解決に向かっていく人づくりを行いたいと思っている。

### 3 特色ある取組

## 粘土こねこね&ジュージュー焼きそば体験

#### (1) 事業のねらい

親子、親同士のふれあいを強め、地域行事への関心を高める。

#### (2) 具体的な取組

##### ア 事業の概要

小学生の児童とその保護者を主対象にして、物づくり体験(焼き物)と親子の交流を図る。

##### イ 日時、場所、参加者、主な内容

《第1回目》8月30日、工房遊陶里、8家族を対象(指導は工房の堂面先生)

・親子、親同士が交流しながら、粘土で皿とコップを作る。

《第2回目》9月19日、工房遊陶里、8家族を対象(指導は工房の堂面先生)

・乾燥させた皿とコップに釉薬をつける。

《第3回目》9月27日、西公民館、8家族と料理教室の皆さん、堂面先生

・焼きあがった皿やコップを鑑賞し合い、更に料理教室の皆さんに教わりながら焼きそばを作り、自作の皿を使って交流しながら食べる。

##### ウ 工夫した点

親子が協力することによって親子のつながりが深まるような場を設定した。また、焼き物の先生や料理教室の皆さんなど、地域の人材を活用した。



粘土から形づくり



作品鑑賞



会食

#### (3) 成果と課題

##### ア 成果

地域の方との交流や親同士、親子のコミュニケーションが良くできた。ものづくりの共通体験や食事をしながらの交流は、効果的だった。

##### イ 課題

小学生はよく活動ができたが、保育園児対象者としては難しいという事がわかった。

#### (4) 今後の方向性

ア 自然との関わりを通して、地域の方々と共に行う親子活動の実施。

イ 子育て世代の事業参加による世代間交流の活発化ではぐくむ心豊かな地域づくり。

#### 評価 (A大変よい Bよい Cもう少し)

評価の視点	評価指標	評価
子育て世代が参加したか	【参加者数】 40家庭中8家庭、参加率20%	B
事業の見通しを持ち、進んで活動することができたか。	【アンケート・観察】 (大人)進んで活動できた71% (子ども)進んで活動できた100%	B
子どもと共に活動する喜びを感じることができたか	【アンケート・観察】 非常によいふれあいができた85%(7人中6人)	A
子育て世代の連帯感が生まれたか	【アンケート・観察】 コミュニケーションがよく図れた71%(7人中5人) まあまあ図れた29%(2人)	B

アンケートをもとにした評価